

番号	講演に関するご質問・ご意見をお書きください	回答
1	クマ類の錯誤捕獲を防止する良い方法はありますか。	2022年5月にJBNシンポジウムとしてクマの錯誤捕獲に関する問題を取り扱いました。要旨集に詳細情報および参考文献を記載しておりますのでそちらをご覧ください。 要旨集URL： https://www.japanbear.org/wp/wp-content/uploads/2022/05/02dea50c66064d1dfdc8c8e91141b5e6.pdf また、今後もJBNとして錯誤捕獲防止に関する取り組みを進める計画をしておりますので、進捗がありましたらHPやNL等でご報告をいたします。
2	四国のツキノワグマの個体数の現状を知りたいです。	2017年時点の生息数は20頭前後と危機的な状況にあります。詳しくは、JBNの活動報告書URL： https://www.japanbear.org/report/ 、JBNも参加している四国ツキノワグマ保護プログラムのサイトをご覧ください。URL： https://islandbearproject.org/
3	トランクキット内のレクチャーガイドについて、トランクキット用ではありませんが、クマのことを伝えられる人材を増やすことを踏まえると、一般に公開してトランクキットを実際に借りる人以外にも参考資料として使っていただくのが良いのかなと思いました。そのような予定はあるのでしょうか。	貴重なご意見ありがとうございます。ティーチャーズガイドの一般公開に関しては、問合せをいただければお渡し（閲覧）できるような仕組みを作りたいと考えております。全面公開についても検討していきたいと考えています。
4	下草刈りによって野鳥などの生態に影響がある可能性について少しお話がありましたが、その対策はどういったものが行われている、もしくは考えられるのでしょうか？	正しい答えはわかりませんが、石山地区の取り組みでは下草刈り対象地域をゾーニングして、人の利用が多い歩道側とクマの侵入方向にあたる上流側は強めに下草刈りを行い、下流部方向は多少のヤブを残す、また外来種は積極的に刈る、といった方法でバランスをとって作業を行っています。
5	都市だけではないですが、ヤギや牛がいるとクマが接近しづらくなるという情報もときどき目にします。また、南木曾町の忠犬プロジェクトなどもあるのですが、そういう動物の活用は、別の関心層をくわえられないかしら？（ストーブをやっている人が、伐採に参加するのに似ている面もあるような気がします。）	北海道でも、河畔林の草刈り労力軽減と家畜飼養の両立としてヒツジを放牧する事例があります。こうした活動が結果的にクマにとって侵入しにくい、また侵入したとしても発見しやすい環境作りに役出す可能性があります。ご指摘の通り、河畔林にドッグランを作って犬の匂いをつけておくとか、さまざまな関心層に対してクマ対策への貢献と関心に応じたやりがいがある活動を生み出す可能性がまだまだあると思います。市民活動や地域活動を中心にボトムアップで、様々なアイデアをもとに、失敗したらやり直せるくらいの小さな活動を広げていくことが大切かなと思います。
6	緩衝帯の整備について、誘引物除去が不十分だったり、2年目以降の手入れが不十分だと桑等の成長が逆に進んでしまうことから、集落規模の農業被害対策においてはそこまで強くは推奨はしていません(人手的に後手になる側面も大きいです)。市街地周辺においても、手入れ不足に陥った時に同様の問題が出そうだったのですが、今のところ問題等は出ていないですか？	これまでの活動では、なんとか継続できていますが、ご指摘のような課題はありえることと思います。外来種が繁茂してしまう可能性など。一度限りの大規模な環境改変を行うより、規模は小さくても持続できるレベルの活動を少しずつ広げていくのが良いように思います。